



思考への探求

校内研究だより
令和6年11月15日
No.(5)

学ぶこと・考えることを楽しむ

～全教科で育てる「言葉の力」

思いを伝え受けとめ(個別最適な学び)ともに学ぶ(協働的な学び)子どもの育成～

11月15日、今年度5回目、そして最後の校内研究を行った。今年度は「考えることを楽しむ」を研究のテーマとして、各教諭が言葉の力を意識して授業を考えて提案をしてきている。

授業者は3年2組担任河野里佳教諭。教科は算数であった。3年生の子どもたちと、コンパスのもつ、同じ長さを測ったり、写し取ったりすることのできる機能に触れ、習熟することを目標とした授業に取り組んだ。

コンパスを使って測るのは、3年2組から保健室までの距離。1年生教室前を通るルートと、2年生教室前を通るルートの二通りの行き方がある。その図をワークシートとして児童に配布をした。子どもたちはそれを使ってから、どちら側がより近いのかをコンパスを用いて調べる活動に取り組んだ。この子どもたちの日常生活に基づいた教材は、子どもたちの興味と関心を高め、自発的にコンパスを使う姿を引き出していたと考えられる。

研究協議会では、新潟市立上所小学校の志田倫明先生をお迎えし、授業の指導・講評をいただいた。

教員同士の協議では、子どもたちの発想をより豊かに引き出したり、生かしていったりするにはどうしたらよかったのかが、話題の一つであった。子どもたちが意見を言うだけでなく、それに対する判断も子どもたちに委ねていくような授業展開を考えた。

志田先生の講義において、本単元の目標に立ち返り、それに応じた単元のデザインを考えたり、変えたりしていくことの大切さを感じた。単元のデザイン次第で、本時に子どもたちが取り組んだ活動の価値や意味も変容していくことを学んだ。そして、そのデザインの実現という視点で授業を振り返ったことで、我々の目指す授業には、子ども同士の学び合いや伝え合いの場があることを改めて確かめることができた。



単元や授業における、『学びのデザイン』という考え方は、これからの授業研究と実践に役立つものとなっていくのではないだろうか。